






































## ◎ 県内の景況(情報連絡員報告から)

<8月> 業界の景況(前月比DI値)

先月同様、新型コロナウイルスの影響により、景況感の悪化が続く。

情報連絡員報告をもとに景況についてDI値を作成しました。業界の景況についての項目を「好転」割合から「悪化」割合を引いた値をもとに作成し、その基準は右記のとおりです。

30以上	10~30未満	10未満 ~△10	△10超~ △30未満	△30以下
				

業種		業界の景況(前月比DI値)			
		令和2年5月	令和2年6月	令和2年7月	令和2年8月
製造業	食料品製造業	 △ 50	 △ 33	 △ 17	 △ 50
	木材・木製品製造業	 △ 100	 △ 100	 △ 100	 0
	印刷・出版 同関連製造業	 △ 100	 △ 100	 △ 100	 △ 100
	窯業・土石製品 同製造業	 △ 67	 △ 33	 0	 △ 67
	鉄鋼・金属 同製造業	 △ 67	 △ 67	 △ 33	 △ 33
非製造業	卸売業	 △ 20	 △ 40	 △ 60	 △ 60
	小売業	 △ 83	 △ 67	 △ 67	 △ 33
	商店街	 △ 100	 △ 67	 △ 67	 △ 67
	サービス業	 △ 83	 △ 80	 △ 33	 △ 29
	建設業	 △ 50	 △ 17	 △ 17	 △ 17
	運輸業	 △ 67	 △ 67	 △ 50	 0
その他	 0	 0	 0	 0	

各業界の詳細(前年同月比、業界の動き)が必要な方は本会までご連絡ください。

2. 組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
味噌醤油業界	前月は「Go To トラベルキャンペーン」により、わずかではあるが業務用関係が動き出した感があったが、8月は異常な暑さと新型コロナウイルスの感染拡大で消費の動きが非常に鈍った。こうした状況のなか、食品衛生法改正による HACCP 完全制度化に向け会社全体で改めて研修会を開催し勉強している組合員もいる。
製パン業界	前月と同様に以前の売上げを取り戻すには至っていない。
冷凍業界	8月の水揚高の減少や新型コロナウイルスの影響により入出庫ともに荷動きが悪い。今後、海水温上昇等による魚群の来遊時期の遅れや台風の影響等による水揚げ量の減少が懸念される。
水産練製品業界	新型コロナウイルスの影響と、猛暑の影響で売上減少が続いている。給食・ホテル・居酒屋など業務関連の売上の落ち込みも大きい。
酒造業界	4、5月の壊滅的な状況に比べれば好転しているが、前年の出荷数量には遠く及ばない。高品質酒割合の高い宮城県産酒は料飲店市場への依存度が高く、いわゆる家のみ需要への対応が難しい。量販店市場に強い大手酒造会社では前年の数量を上回る出荷をしているケースもあり、販売ルートの違いにより明暗が分かれている。
製麺業界	新型コロナウイルスの影響で、東京市場(スーパー等の流通販売ルート)は8月も引き続きかなり忙しい。一方、土産店や百貨店、業務店ルートは回復基調は見られるが厳しい状況にある。
木材業界	7月の県内住宅着工数は1,204戸で前月比20%、前年同月比25%減少と大きく落ち込んだ。前月より持家は増えたものの、分譲が大きく減少したことが要因と思われる。前年同月比は12ヶ月連続で減少となった。原木は合板、製紙、製材での受け入れ制限により、値下がりが続いている。製品も荷動きの低迷が続き、価格は横ばいとなった。合板は3割減産を続け、需給バランスを維持し底値脱出を探っている。木質バイオマスとホームセンターの需要は比較的安定している。今後の業界の見通しは、地域や業態によって楽観的な見方と悲観的な見方が入り交じり、先行き不透明感に覆われている。
印刷業界	イベント開催の見通しが立たず、先行き不透明感は変わらない。受注減少に併せ生産体制を調整し、雇用調整助成金等を利用しながら凌いでいる。取扱商品(商業印刷、ウェブ企画、フォーム印刷、シール・ラベル印刷等)により、影響度合いに差が出ている。商業印刷は厳しく、ウェブ企画等は伸びしろがある。シール・ラベル印刷等は最終製品により影響の度合いが違う。イベントは、企画段階からコストが発生するなか、開催可否等のリスクをイベント業者が負っており、回復

	の兆しがなかなか見えない。
生コンクリート業界	出荷量は、稼働日数が少ないこともあり、前月比 84.4%、前年同月比 84.6%と 4 ヶ月連続でマイナスとなった。県南地区は、昨年の台風 19 号被害による復旧工事での出荷量が伸びたが、その他の地区は復興事業の終息、物件の減少、コロナ禍の影響により、業界全体が縮小傾向にある。また市況価格の値下がりが広まりつつある。
コンクリート製品業界	7 月の出荷量は、前年同月比 132%、前月比 104%とともに増加した。4 月からの累計でも前年比 104%と増加した。在庫量は減少傾向にあり、今後の生産調整・在庫管理が重要な時期である。
機械金属業界 A	コロナ禍で売上減少、収益悪化など、ますます悪化傾向にあり、先が見えない。
機械金属業界 B	新型コロナウイルスの影響を受け前月より更に売上が減少した。依然として新型コロナウイルス収束の兆しが見えず、来月以降も悪化が続くと予想される。
各種卸売業界	新型コロナウイルスの影響で業況が悪化している。
再生資源業界	<p>全国規模の鉄スクラップの発生が不足し、国内メーカーへの供給不足に加え、中国が新型コロナウイルスに対する国内公共事業投資を行ったことで、鉄製品の需要が増加した。国内での鉄鋼需要は少ないが、中国、ベトナム、バングラデシュ等でのスクラップ需要の高まりから、鉄スクラップ価格が大幅に上昇した。</p> <p>古紙は、国内の発生減少により需給が引き締まり一部価格に上昇がみられたが、国内製紙メーカーの生産が上がらない状態が続き、需給バランスがとれているともいえる。</p>
繊維業界	お盆休みは帰省客が少なく、売上が大幅に落ちたが、猛暑対策商材やクールマスクなど、様々な新商品が登場した。前年比 70%~80%の店舗が多く、回復まで時間を要するが、Go To 商店街での動きが出てきた。
ゴム製品卸売業界	新型コロナウイルス感染拡大により、経済状況は改善せず、製造業は相変わらず低迷しているなか、少しずつではあるが回復の動きを感じている。特に東北は、中央圏に比べ動きがあり、業界でも試行錯誤しながらも動きを実感している。
鮮魚卸売業界	塩竈市の協力を得て 8 月に販売促進イベントを開催した。3 日間の来場者は 15,000 人を超えたが、売上は前年比を回復していない。対面販売のほか、写真やビデオを活用した販売方法を模索しているが、扱っている商品の鮮度を伝えるのが難しい。加えて、水揚げにより価

	格や量の変動が大きく、販売価格の変化に苦慮している。
鮮魚小売業界	海水温上昇により漁獲量低下をまねき、入荷が少ない。特に季節物の魚が少なく、生サンマが昨年の80%減と異常な状況である。 売る商材がなく非常に困っている。
青果小売業界	上旬は高騰していた主要野菜の価格は、お盆明けより大分落ち着いた。白菜、キャベツに天候不順の影響による品質低下がみられ、不安定な入荷となり高騰した。果実も野菜同様に入荷減少の単価高で推移し、特にスイカが前代未聞の価格となった。コロナ禍の帰省自粛や価格高騰で消費者の節約志向が強まり店舗販売、納品ともに低調であった。 レジ袋が有料化となったことで、マイバックを持参する客が増えたが、盗難も増え大変困っている。
食肉小売業界	新型コロナウイルスによる影響が大きくでている。
家電小売業界	8月ようやく梅雨が明けエアコン商戦が本格始動した。前年度と同様に7月は低温で停滞していたが、梅雨明け後は猛暑が続き、夏物商戦に拍車をかけている。緊急事態宣言以降、急速なテレワークの浸透や巣ごもりの影響によるPCや周辺機器、まとめ買いに適した大型冷蔵庫が売れている。地域電器店ではリフォーム工事にも力を入れ秋の個展開催に向け準備を進めている。
石油小売業界	原油価格上昇により、原油相場は高止まりとなった。国内では、新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出自粛の影響により、需要が伸び悩んだが、8月は猛暑となりガソリン需要が増加した。元売りの卸値が上昇基調にあり、小売価格は今後も小幅ながら値上げになると見込まれる。
花卉小売業界	売上は、前年同月比107%と前年を上回った。新型コロナウイルスの影響で輸入物の入荷が減少し、代替えとして品単価が高い国産ものに依存したことにより、取引高・売上が前年を上回った。加えて、新型コロナウイルスの影響による外出自粛や自宅待機の影響で、家庭園芸や家庭用切り花などの売上げが好調であった。また、お盆も外出せず、自宅にいたことが多かったことから、家庭園芸等で売上げは比較的好調だったという声がきかれる一方で、お盆の里帰りなど、人の移動がなく低調だったという報告もあった。新型コロナウイルスの影響により例年とは異なる特殊な月となった。
商店街	(仙台地区A商店街) 前月同様に、前年比は回復していない。  (仙台地区B商店街)

	<p>商店街の人出は、前月比 10%増加したが、飲食店は苦戦しており、2 店舗が撤退を検討している。</p> <p>(大崎地区A商店街)</p> <p>8 月当初の商況はやや持ち直しの動きが見られた、東京を中心とする関東地域の新型コロナウイルス感染者の拡大による、お盆帰省が自粛され、中盤から後半にかけ再び減少傾向に転じた。このような状況のなかで、空き店舗が 1 つ埋まる明るい話題もあった。</p>
自動車整備業界	<p>県内の自動車登録台数は、例年並みに推移している。整備売上の基盤となる車検台数も例年どおり推移しているが、今後新型コロナウイルスがどう影響するか不安である。</p>
ソフトウェア業界	<p>ソフトウェア請負業務は、5 月時点で 5%程度減少していたが、新規業務が新型コロナウイルスの影響で減少しているため、8 月時点での業務量は前月に続き 5~20%減少した。派遣業務は前年度の派遣法改正に伴う人件費増加による経費率の高騰に加え、派遣要請に減少傾向がみられ、前月と同様に収益率が 5~10%減少し、厳しい状況が続く。サプライは新型コロナウイルスの影響で 3、4 月に各企業の物不足対策により上昇した反動で 6 月から売上げが 20%減少した。7 月、8 月は回復傾向にある。</p>
警備業界	<p>毎年 8 月の売上高は、前月比で減少するものの、今年はコロナ禍により減少幅が大きくなった。イベント警備の大幅減少があるが、これを機に大型イベント警備の「分離発注」が注目されている。大規模イベントは、発注者側の都合で、窓口を一本化することにより管理がしやすいとの理由で、分離発注されず、大手イベント会社や旅行会社が元請けとなり警備会社はその下請けに甘んじてきた。その結果、過当競争を強いられ、粗悪な警備業務事例が発生した。</p>
湾岸旅客業界	<p>新型コロナウイルスの影響で、売上は前年同月比 7 割減少した。乗船定員を 50%に制限し運航するも、平均乗船率は 30%程度にとどまった。ウィズコロナに耐え、厳しい状況下で事業継続を図り、新型コロナウイルスの一刻も早い終息を祈るばかりである。</p>
ホテル・旅館業界	<p>Go To トラベルキャンペーンにより旅館（温泉）の販売額は、前月よりは良化している。しかし、東北の夏祭りの中止やお盆時のお客同行の悪化により、前年同月比では依然として厳しい営業実態が続いている。</p>
シーリング業界	<p>景況は、新型コロナウイルスの影響もあり、事業所でバラつきはあるものの受注は持ち直してきている。どの工事物件も納期が厳しく、短・中期的に人的資源が不足気味である。どの事業所も工期に追われ、工期が集中するなか人員確保の難しさが問題である。材料の出荷量は</p>

	<p>前月、前年同月より持ち直してきている。</p> <p>各社の経営状況は、諸々の問題が山積みではあることに変わりなく、新型コロナウイルスの第2波感染が騒がれるなか、いち早い情報の発信やどのような準備が必要なのか、知恵を出し合い共有し乗り越えていきたい。</p>
建設業界	<p>コロナ禍においても、道路維持を含め物流や交通、観光等のための社会インフラ整備は、3密対策等を徹底し進めている。また、東日本大震災から10年の総仕上げの段階に加え、昨年の東日本台風における災害復旧の発注が本格化し、現場が稼働している。</p> <p>一方で、今後の民間設備投資は縮小が予想され、民間需要の落ち込みが心配される。雇用と経済を支える建設業において、防災・減災、国土強靱化3ヶ年緊急対策事業費7兆円が今年度で終了することから、令和3年度以降の対策が望まれる。また、復興後における通常予算の確保も課題である。</p>
硝子業界	<p>夏季休暇もあり、全体的に動きは鈍かった。一部で材料の出荷に遅れがみられる。</p>
板金業界	<p>8月は猛暑とお盆が重り、例年、活動日数が少ない上、今年は新型コロナウイルスの影響もあり、大変厳しい状況となっている。</p>
タクシー業界	<p>対前年度比の実働率は7割程度にとどまっており、輸送収入も6割前後と低調が続いている。</p> <p>LPG 価格が徐々にではあるが値上がりしている。</p>
不動産業界	<p>仙台市内中心部や仙台地下鉄沿線の土地価格は、高止まり感がある。賃貸市場は、新婚さん向けの1LDK～2LDKの問い合わせが活発であり、8月後半は秋の転勤により単身向けの賃貸マンションの契約が好調だった。</p>